カラフルな記事テンプレート

村上友哉

2021年5月17日

	目次	
1	独自定義のコマンド	1
2	独自定義の環境	1
2.1	定理環境	1
2.2	プログラムのソースコードを表示	2
	_	_
3		2
4	文献引用	2

1 独自定義のコマンド

 $\mathbb{N},\mathfrak{p},\mathcal{A},\mathrm{Hom}(A,B),|x|$ などのコマンドを楽に入力できる. 定義したコマンド一覧は mycommand.sty で見られる.

2 独自定義の環境

2.1 定理環境

カラフルな定理環境は thm 環境を使って

定理 2.1: 見出し

定理の内容

として**定理 2.1** で引用する. 定理番号の形式を変更したいときはプリアンプルから設定する. 他にも prop 環境で命題, cor 環境で系, conj 環境で予想, que 環境で疑問, dfn 環境で定義, nota 環境で記号, lem 環境で補題, rem 環境で注意, clm 環境で主張, ex 環境で例, obs 環境で観察, exc 環境で演習問題を出力できる.

定義 2.2

補題 2.3

演習問題 1

演習問題だけはデフォルトで番号付けが定理番号とは別の通し番号になっている.変更したいときはプリアンプルから設定する.

2.2 プログラムのソースコードを表示

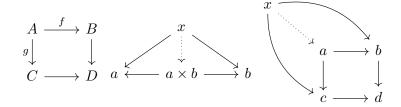
Copy and paste source code of Python or Sage.

Copy and paste result.

のように使う.

3 図

可換図式は TikZ-cd を使って



のように書く(参考にした URL).

4 文献引用

文献の内容を bib ファイルに bibtex 形式で MathSciNet などからコピペした上で [AM06, 定理 1.1] などとして文献を引用する. 本当は cite コマンドの前に半角スペースではなくチルダを使うことで行頭への出力を禁止するが, mypackage.sty 内で読み込んだ cite パッケージの効果によりチルダを使わずとも行頭への出力を禁止できる.

謝辞

mycommand.sty で定義しているコマンドの一部は松坂俊輝さんに教えて頂いたものを使っています.また,このテンプレートはインターネット上に公開されている膨大な知見をもとに作成されています.ここに感謝いたします.

参考文献

[AM06] Michael F. Atiyah and Ian G. MacDonald. 可換代数入門. 共立出版, 2006. 新妻弘 (翻訳).